

熊本大学泌尿器科学教室を運営したいと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 熊本大学大学院生命科学研究所 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 分野教授就任のご挨拶



大学院生命科学研究所  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学  
分野教授  
折田 頼尚

平成二十九年六月十六日付で熊本大学大学院生命科学研究所耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野教授に就任しました。私は平成八年に岡山大学を卒業後岡山大学耳鼻咽喉科に入局し、同教室大学院に進学しました。当初は主として耳科学分野の研究を行い、平成十二年から二年間留学した米国ピッツバーグ大学で行ったヒト耳管側頭骨病理に関する研究で学位を取得しました。学位取得後は大病院で鼻内視鏡手術担当を経て頭頸部腫瘍担当となり、平成十七年から二年間癌研有明病院頭頸科で研修して以来、本格的に頭頸部腫瘍の道に入りました。平成十九年に岡山済生会総合病院の医長となった時は私が「癌研帰り」だということも多く、癌患者をご紹介いただき、耳鼻科医一年生と二年生の部下二人と倒れる寸前の毎日をご過ごしました。平成二十二年の秋に大学に戻って以後は、臨床では耳科手術

と甲状腺腫瘍をメインで担当する傍ら大学院生の指導を行い、二名の者に博士号を取得させ、現在三名が取得申請中です。当科では岡山ではあまり盛んでなかった音声・嚥下分野が進んでおり、私も大変勉強になります。その一方でやってくる患者の多くはやはり悪性腫瘍で、良性の腫瘍や手術が必要な耳疾患の患者はどいうしても後回しとなり、手術待機症例の増加が深刻な問題となっております。人手不足の関係で関連病院はどの施設も耳鼻科医は大体一人か二人での診療がされており、彼らの苦勞を推し量ることは容易で疲弊が懸念されるところです。受け皿となる施設の不足から、急患も数多く大病院で受け入れざるを得ず、結果さらに大病院での待機症例が増えるという悪循環をきたしています。今後は何とか耳鼻科医を一人でも多く確保し、地域拠点病院を充足させ、安心してご紹介して頂ける施設とするだけでなく、そこで働く常勤医の負担を軽減し、更にはその施設でローテートしている研修医にとっても魅力のある科にしていきたいと思っております。人手が増えれば研究に専念する科全体のレベルアップが実現できるかと思っております。

私は生まれも育ちも岡山で、熊本には縁もゆかりもございません。当初はかなり不安でしたが、皆様には温かく迎え入れていただき、大変感謝しております。良い医療を提供するためには、スタッフの幸せが大前提だと思います。同門の諸先生方、関連病院のスタッフ、看護師、

そして医局員を含めたすべての関係者が良い方向に向かえるよう微力ながら努力していく所存です。皆様には、どうか今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 熊本大学保健センター長就任 のご挨拶



保健センター長  
藤瀬 昇

平成二十八年五月一日付けで熊本大学保健センター教授に、平成二十九年一月から同保健センター長に就任致しました。私は平成元年に熊本大学医学部を卒業して、神経精神科に入局致しました。大病院の後、宮崎市内の県立宮崎病院精神科で一年間研修をしました。宮崎市の繁華街に程近いところにある病院で、精神科は上司と私の二人体制で、脳波計をゴロゴロ押しして往診したりして、とても勉強になりました。脳の仕組みについて勉強したいと思うようになり、当時の宮川太平教授のご指導で神経精神科の大学院に進みました。途中から、第二解剖教室（故上原康生教授）に移って電子顕微鏡のテクニクについて学び、その後さらに、国内留学のかたちで九州大学第三解剖教室の小坂俊夫教授の下で神経科学の基礎を学ぶ機会を得ることが出来ました。結局四年半ほど基礎医学の研究に従事し

ましたが、精神科臨床への興味も捨て難く、平成九年に熊本大学神経精神科へ医員として戻ってきました。その後、医局長として、地域の精神科医療を維持するのにも貴重な経験を致しました。

平成十九年に池田学教授が神経精神科に着任されてからは、県内の自殺率の高い地域において高齢者を対象としたうつ病のフィールドワークを始め、現在も続けています。また平成二十四～二十六年にかけて毎年、県および県医師会との協同で、熊本市を除く県内全ての保健所エリアを廻って、うつ病の医療連携研修会を実施し、一般科と精神科との連携の重要性を改めて認識しました。

昨年五月からは現部署に移り、主に学生さんと教職員のメンタルヘルス支援に従事しています。社会全体で心の問題が叫ばれて久しいですが、いよいよ熊本大学も他人事ではなくなってきたようです。これから社会に出て行こうとする彼らの躰を少しでも小さくするお手伝いが出来ればと考えています。本年四月からは（障がい）学生支援室長も兼務しており、これは、平成二十八年四月施行の「障害者差別解消法」に合わせ、障害を抱えた学生でも健常者と同等に高等教育を受けられるように支援するために設置された部署です。熊本大学は、大学院も含めると学生が約一万人余り、教職員が二千人を超す巨大な組織です。今後時間をかけて熊本大学におけるメンタルヘルス支援の体制を整えて行きたいと考えています。皆様のご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。